

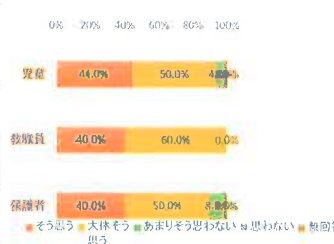
学校教育目標  
 確かに学び合い ふるさとを愛し 未来をになう 一人ひとりが輝く子どもの育成

重点項目1

効果的にICT機器を活用し主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

保護者アンケート1	子どもは、基本的な学習内容を理解し、学年に応じた学力が身についている。	教職員 自己評価1 学力向上	学級や個々の児童の実態を把握し、指導方法や教材を工夫し、自らの授業力向上に取り組んだ。	児童アンケート1	1, 2年	学校の べんきょうは よくわかる。
					3, 4年	授業の内容はよくわかる。
					5, 6年	授業の内容はよく分かる。

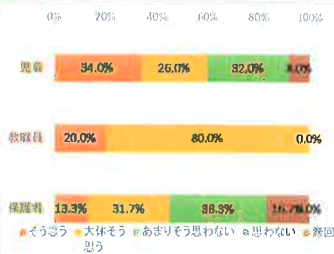
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	44.0%	50.0%	4.0%	2.0%	0.0%	3.4	-0.2
教職員	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4	-0.4
保護者	40.0%	50.0%	8.3%	1.7%	0.0%	3.3	0.0



GIGAスクール構想による1人1台配布されたタブレット端末等のICTを有効に活用し、より個別的で一人ひとりの児童に合った最適な学びの実現を目指して学力向上に取り組んでいる。学習の過程で子どもたちが自ら考えたり話し合ったりする時間を確保したり、互いに友達のを聞くことで自分の考えを高める等の学習場面を設定するなど、学習形態を創意工夫しながら取り組んだ。少人数による個々に応じた指導により、きめ細やかな指導を心がけている。現時点では、自ら課題を見つけ解決していく力や発信していく力など、自ら進んで学習した内容を活用する力が不足している面について課題があることから、今後、個々の実態に応じた指導法の工夫や授業内容の改善を図りながら取り組んでいきたい。

保護者アンケート2	子どもは、家庭で本や新聞を読んでいる。	教職員 自己評価2 読書活動	読書環境を整え、学校図書館サポーター等との連携を図りながら、児童の読書習慣の形成や読解力の向上等に取り組んだ。	児童アンケート2	1, 2年	まい日、本を読んでいる。
					3, 4年	毎日、本や新聞を読んでいる。
					5, 6年	毎日、本や新聞を読んでいる。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	34.0%	26.0%	32.0%	8.0%	0.0%	2.9	0.2
教職員	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2	-0.4
保護者	13.3%	31.7%	38.3%	16.7%	0.0%	2.4	0.0



図書館サポーターや「おはなしひろば」のボランティアによる読み聞かせ活動の実施を行うことで、身近に本に親しむ機会を多くした。図書館サポーターにより児童が興味関心を示しそうな新刊図書を図書室や教室に増やした。また、年間9回の移動図書館ひまわり号を積極的に活用し、読書の推進に取り組んだ。第3日曜日を家庭読書の日に設定し、親子読書カードを配布し児童や保護者のコメントを活用することで、日々の読書意欲を高め、読書習慣の定着を図っている。新聞については、NIEのゲストティーチャーを招いて新聞記事の作成等の学習(5年)を実施したり、『阿波っこタイムズ』を効果的に活用する授業を行ったりし、今後も引き続き「新聞に親しみながら、新聞を読む習慣づくり」に取り組んでいきたい。

保護者アンケート3	子どもは、人の話をよく聞き、自分の考えを言うことができる。	自己評価3 探求的な学習 体験的な学習	指導の目標を設定し、見通し・学び合い・振り返りの三つの視点に立った授業の実践に取り組んだ。	児童アンケート3	1, 2年	ともだちのいけんをよくきき じぶんのかんがえをいうことができた。
					3, 4年	人の話をよく聞き、よく考え、その考えを他の人に伝える努力ができた。
					5, 6年	人の話をよく聞き、よく考え、考えたことを整理して分かりやすく発表することができた。

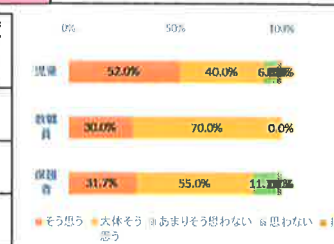
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	16.0%	62.0%	20.0%	2.0%	0.0%	3.0	0.0
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	0.0
保護者	21.7%	55.0%	21.7%	1.7%	0.0%	3.0	0.1



学習活動においては、学習課題をしっかりとつかみ、いろんな友達のを聞きながら自分の考えを深めていき、学習課題の解決を図っていくことを大切にしている。学習形態として、近くの友達と意見を交換したり、グループによる話し合い活動を行ったりしている。この活動過程で、自分と異なった多様な考えを聞くことで、より内容を理解し、考え、そしてその考えを人に分かりやすく伝える力を身につけさせたいと思っている。このような班活動や発表活動の充実を図ることによって、さらに児童に聞く習慣や表現力を身につけさせたい。私たちが教職員も日頃から子どもたちの声にしっかりと耳を傾けながら、子どもたちからも話しかけやすい雰囲気や環境づくりに努めていきたい。

保護者アンケート4	学校は、タブレットなどのICT機器を活用した授業に取り組んでいる。	教職員 自己評価4 情報化・グローバル化	GIGAスクール構想により、指導環境が向上したと思う。	児童アンケート4	1, 2年	タブレットをつかった じゅぎょうはわかりやすく感じる。
					3, 4年	タブレットなどのICT機器を使った授業は分かりやすく感じる。
					5, 6年	タブレットなどのICT機器を使った授業は分かりやすく感じる。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	52.0%	40.0%	8.0%	2.0%	0.0%	3.4	0.1
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	-0.2
保護者	31.7%	55.0%	11.7%	1.7%	0.0%	3.4	0.1

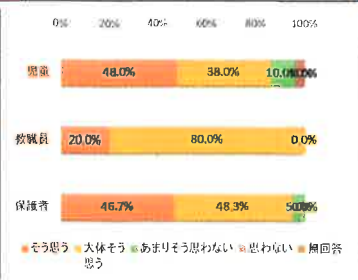


全ての学年でタブレット端末等を使った授業を行い、児童の発達段階による活用内容を設定し、学びのための一つのツールとしてタブレット等のICT機器を活用してきた。ICT等の機器を活用することにより、学習内容の確かな理解や知識の定着を図ることはもちろん、自ら学習したことを他者に発信する表現力の育成にも役立ててきた。特に子どもたちの操作能力の向上はすさまじいものがあり、着実にデジタル機器のスキルを身につけてつづけている。今後、個々の児童へのきめ細やかな学習指導を心がけながら、効果的なICT機器等の活用を研究し、教職員のスキルアップを図りながら、授業に生かしていきたい。

重点項目2  
人権教育の充実を図り、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に向けた教育を推進する。

保護者アンケート5	子どもは、思いやりや友達を大切に する心が育っている。	教職員 自己評価5 人権教育	人権教育年間指導計画に基づき、計画的・ 継続的に人権教育に取り組んだ。	児童アンケート5	1, 2年	人が こまっているときは、すすんで たすける。
					3, 4年	人が困っているときは、進んで助けている。
					5, 6年	人が困っているときは、進んで助けている。

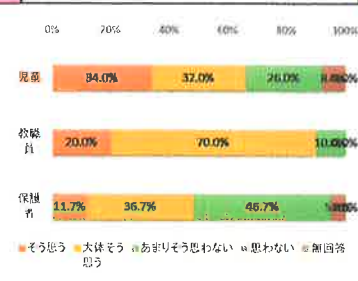
5	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	48.0%	38.0%	10.0%	4.0%	0.0%	3.3	-0.1
教職員	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2	-0.2
保護者	46.7%	48.3%	5.0%	0.0%	0.0%	3.4	-0.1



本校の児童は、学年を超えての交流も盛んで、高学年が下の学年の児童に優しく手助けをしたり、一緒に遊んだりできる場所は素晴らしいところであり、大切にしていきたい。例えば「かがやき班活動」がある。これは、1年生から6年生までがそれぞれ6班に分かれ、草取り等のボランティア活動を行った後、各班ごとにドッジボールや鬼ごっこ等の異学年交流活動を行っている。また、よく気がつき優しく素直な児童が多いため、日頃から手伝いなどは嫌がらずにすることができている。一方で、新しい環境や今まで経験の少ないことに対しては、消極的な面が見られるので、今後、いろいろなことに興味を持って、自ら進んで挑戦しようとする行動力を育てていきたい。

保護者アンケート6	家庭で、人権問題や人権学習について話し合うことがある。	教職員 自己評価6 家庭人権啓発	自らの人権感覚を磨き、人権尊重社会の実現に向け保護者啓発に取り組んだ。	児童アンケート6	1, 2年	道とくの 時間に 学習したことを 家の 人と 話す ことがある。
					3, 4年	学校での人権や道徳の学習について家の人と話すことがある。
					5, 6年	学校での人権や道徳の学習について家の人と話すことがある。

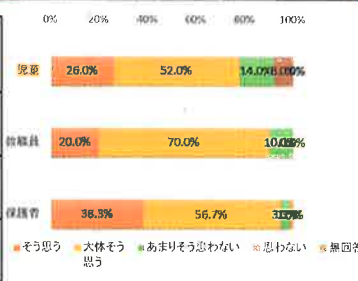
6	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	34.0%	32.0%	26.0%	8.0%	0.0%	2.9	0.2
教職員	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	0.0%	3.1	-0.5
保護者	11.7%	36.7%	46.7%	5.0%	0.0%	2.5	-0.2



毎月第1日曜日を「家庭人権の日」として位置づけたり、人権通信を発行人権に関する内容について発信したりしているが、学校から家庭への十分な働きかけがなされていなかったために、家庭において十分生かされていない現状がある。今後、人権学習や道徳の時間に学習した内容を持ち帰り、家庭で話し合うきっかけとなるよう積極的に学校から家庭へ発信していかなければならないと思う。また、PTA人権部や人権主事が年3回発行する人権通信等の内容に関しても、保護者の方からの感想や意見をいただくなど、有効に活用されるような双方向性のある内容を検討し、改善していきたい。

保護者アンケート7	子どもは、生命を大切に する心や社会のルールを守る 態度が育っている。	教職員 自己評価7 道徳教育	道徳教育年間指導計画に基づき、「考え議論する道徳」の授業に取り組んだ。	児童アンケート7	1, 2年	道とくの 時間に、友だちと 考えたり、話し合ったりしている。
					3, 4年	道徳の授業で学んだことや心に残ったことを生活の中にかかそうとしている。
					5, 6年	道徳の授業で学んだことや心に残ったことを生活の中にかかそうとしている。

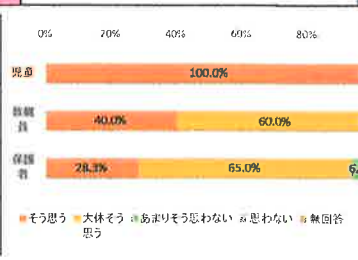
7	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	26.0%	52.0%	14.0%	8.0%	0.0%	3.0	-0.2
教職員	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	0.0%	3.1	-0.4
保護者	38.3%	56.7%	3.3%	0.0%	1.7%	3.4	0.0



道徳の授業では、友達との多様な感じ方や考え方に接しながら、自分を振り返り、日常生活の中でのように課題解決に生かしていくかという道徳的実践力を養っている。ほとんどの児童は、授業で学んだことを生活に生かそうとしているが、教職員や保護者にとっては、児童が主体的に道徳の学習に取り組む、自らを振り返り、課題や目標を見いだす授業の実践に対して満足いくレベルに達していないようである。今後、児童の実態から各学年の課題を検討し、本校の児童にとって今何が必要なのかについての研修を深め、家庭とも連携しながら児童が考え議論する授業実践を学校全体で取り組んでいきたい。

保護者アンケート8	学校は、一人ひとりが安心して過ごせるよう、いじめの根絶に取り組んでいる。	教職員 自己評価8 いじめの根絶	人権を尊重した言動で範を示し、いじめの根絶に向けた教育、仲間づくり、いじめの早期発見、対応に努めた。	児童アンケート8	1, 2年	いじめは、いけないことだと思う。
					3, 4年	いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。
					5, 6年	いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。

8	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0	0.1
教職員	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4	-0.4
保護者	28.3%	65.0%	6.7%	0.0%	0.0%	3.2	-0.1



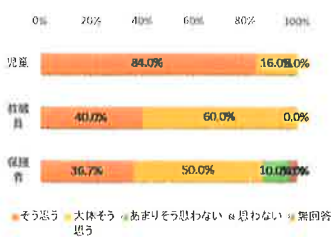
いじめの定義に則り、されたり言われたりして嫌な思いをしたことがあれば、いじめであるという意識と、いじめはどこにでも起こりえることであるという危機意識を持って、いじめの早期発見・早期対応に努めてきた。日頃から、児童一人ひとりに寄り添いながら、安心して学校生活を過ごせるよう児童の様子について保護者と連携しながら取組を行ってきた。本校の児童は、「絶対にいじめは許されないことだ」と認識をしている。今後も、児童一人ひとりが安心して学校生活を過ごせるように、なまづぐりを大切にしながら、何がいじめなのかをこれからも粘り強く指導していきたい。



重点項目3  
一人ひとりが大切にされ、笑顔あふれた学校にするために「ポジティブな行動支援(SWPBS)」に取り組む。

保護者アンケート9	先生は、子どもが学習や生活に困難を感じている時、適切に対応してくれている。	教職員自己評価9 児童理解	一人一人のニーズに合った教育的支援や配慮を提供するとともに、困難を感じている児童に対して真摯に対応した。	児童アンケート9	1, 2年	先生は、一人一人を大切にしてくれる。
					3, 4年	先生は、一人一人を大切にしてくれる。
					5, 6年	先生は、一人一人を大切にしてくれる。

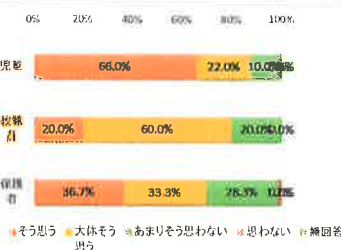
9	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	84.0%	16.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8	-0.1
教職員	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4	-0.5
保護者	36.7%	50.0%	10.0%	3.3%	0.0%	3.3	-0.1



少数の学級の利点を活かしながら、一人ひとりの児童の状況を理解することを大切にし、寄り添いながら学習支援や生活支援に取り組んでいる。しかし、その対応が不十分であると感じている保護者の方があることを真摯に受け止めている。保護者の方への学校からの情報が双方向性に十分なり得ていないために、大切に必要な情報が共有されていない面があるのではないかとと思われる。今後は、これまで以上に保護者の方との情報共有を密にし、より一層児童一人ひとりの教育的ニーズに合わせた支援や言葉がけを大切にしていきたい。

保護者アンケート10	子どもは、将来の夢や目標をもっている。	教職員自己評価10 キャリア教育	キャリア教育年間指導計画に基づき、児童の社会的、職業的自立に向けた教育に取り組んだ。	児童アンケート10	1, 2年	わたしには、ゆめや やりたいことがある。
					3, 4年	自分には、夢や やりたいことがある。
					5, 6年	自分には、夢や やりたいことがある。

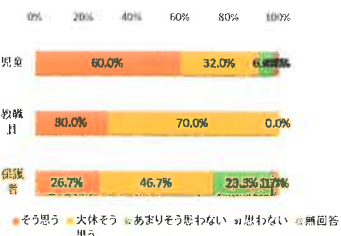
10	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	66.0%	22.0%	10.0%	2.0%	0.0%	3.5	-0.1
教職員	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	3.0	-0.4
保護者	36.7%	33.3%	28.3%	1.7%	0.0%	3.1	0.0



本校では、全ての教育活動において、児童一人ひとりのよさや可能性を認め、伸ばしていくことを大切に取り組んできた。自分の長所を知り、自信と肯定感をもって生活することは、これからの人格形成に大変重要なことである。得意なことややりたいことを見つけることが、夢や目標につながる。やる気を引き出すこととなる。アンケートによると、児童のおよそ9割が夢や目標を持っている。今後も児童一人ひとりを大切にしながら、個々の特性を引き出すキャリア教育の実践を行ってきたい。

保護者アンケート11	子どもは自分の健康に気をつけ、運動習慣が身についている。	教職員自己評価11 健康・体力	児童の発達段階に応じた健康教育や望ましい運動習慣の形成に取り組んだ。	児童アンケート11	1, 2年	毎日 あさごはんをたべ 外でしっかりあそんでいる。
					3, 4年	毎日、朝ごはんを食べ、体を動かしている。
					5, 6年	毎日、朝食を食べ、体を動かしている。

11	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	60.0%	32.0%	6.0%	2.0%	0.0%	3.5	-0.2
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	-0.5
保護者	26.7%	46.7%	23.3%	1.7%	1.7%	3.0	0.0



天気の良い日は朝から外で遊んでいる児童もいるが、あまり外に出て遊んでいない児童もいる。児童と保護者から「あまりそう思わない」「思わない」という回答が多かったことは、運動に対する興味関心の二極化が伺われる。また、毎年、学校給食センターの栄養教諭による「食育パワーアップ作戦」の実施(2・4・5年)により、各学年の発達段階を考慮した食育学習に取り組んでいる。この学習と併せて、基本的な生活習慣の基本である朝ごはんをしっかり食べるよう引き続き指導しつつ、積極的に運動できる環境づくりに努めていきたい。

保護者アンケート12	先生は子どもの良いところを認め、伸ばそうとしてくれている。	教職員自己評価12 人間関係調整力	子どもの自己肯定感を高めるための取り組みや肯定評価に努めている。	児童アンケート12	1, 2年	先生は、よいところをほめてくれる。
					3, 4年	先生は、よいところを認めほめてくれる。
					5, 6年	先生は、よいところを認めほめてくれる。

12	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
児童	60.0%	38.0%	2.0%	0.0%	0.0%	3.6	-0.1
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	-0.5
保護者	35.0%	55.0%	6.7%	3.3%	0.0%	3.3	-0.2

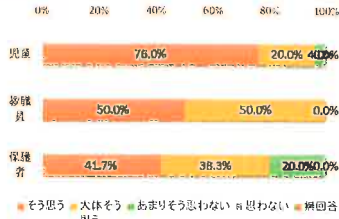


本校では、ポジティブな行動支援に取り組んでいる。全ての学校教育活動において、児童の望ましい行動に対してタイミングを捉えて賞賛するようしていった。そのためには、全ての教職員が児童一人ひとりを見つめ、児童の望ましい行動に対して共有し、児童理解につなげている。さらに、児童同士でも互いのよさを褒め合う会等で伝え合うようにもしている。これからも継続して、日々の生活の中で、自分のよさが認められていることや自分たちの行動が良くなっていることが実感できるような工夫を取り入れていきたい。

重点項目4  
持続可能な社会を担う児童の育成を目指し、地域とともにある学校づくりを行う。

保護者アンケート13	子どもはふるさとを誇りに思う気持ち が育っている。	教職員 自己評価13 郷土愛	地域の教育資源を活用し、地域の魅力に 触れ、ふるさとへの誇りと郷土愛を育む教育に 取り組んでいる。	児童アンケート13	1, 2年	じぶんがすんでいるところが すきだ。
					3, 4年	阿南市というまちが好きだ。
					5, 6年	阿南市というまちが好きだ。

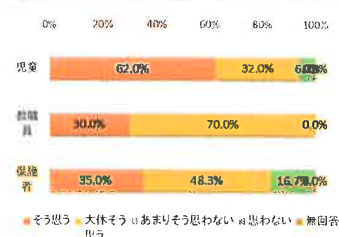
	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	76.0%	20.0%	4.0%	0.0%	0.0%	3.7	0.0
教職員	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5	-0.1
保護者	41.7%	38.3%	20.0%	0.0%	0.0%	3.0	-0.2



本校ならではの学習として、地域の方々にご尽力をいただき、総合的な学習の時間等を活用し、たくさんの講師をお招きして加茂谷地区の自然環境や遺跡等の地域資源についての学習に取り組んでいる。児童にとっては、自分が生まれ育っている加茂谷地区の素晴らしさについて気持ち、継承していくことの大切さについて学ぶ機会となっている。今後も継続的に地域の魅力に触れながら、地域を活性化するための方策を考えるとともに、ふるさと加茂谷地区を愛し、地域創生に主体的に取り組もうとする人材を育成していきたい。

保護者アンケート14	子どもは家庭や地域で進んであいさつ をしている。	教職員 自己評価14 地域との 連携・協働	学校・家庭及び地域で、自ら進んであいさつ や会話ができる子どもの育成に努めた。	児童アンケート14	1, 2年	あいさつを したり、話を したりすることは すきだ。
					3, 4年	進んであいさつをしたり、会話を楽しんだりしている。
					5, 6年	進んであいさつや会話をし、人とのつながりを大切にしている。

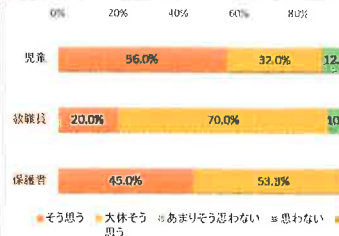
	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	62.0%	32.0%	6.0%	0.0%	0.0%	3.6	-0.1
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	-0.3
保護者	35.0%	48.3%	16.7%	0.0%	0.0%	3.2	0.0



あいさつができる学校をめざして、毎朝、6年生が中心となって、正門前で清掃活動とあいさつ運動を行っている。登校時には、元気のよいあいさつが聞かれるが、町中で出会った地域の方へのあいさつが十分行われていないというご意見もある。礼儀正しくあいさつができる児童もたくさんいる一方、自分から先にあいさつができることよのにと感じる児童もいる。来年度は、まずは「出会った人に、自分から先に元気のよいあいさつができる」ように目標を立て、全校で取り組んでいきたい。

保護者アンケート15	学校は、お便りやホームページなど を通して、学校での教育活動の様子 を積極的に伝えている。	教職員 自己評価15 家庭との連携 説明責任	教育方針や教育活動、成果等の発信、行事 等の連絡により、家庭への適切な情報提供 を行い、家庭との連携を図った。	児童アンケート15	1, 2年	学校のことを、家で 話している。
					3, 4年	学校のことを、家で 話している。
					5, 6年	学校のことを、家で 話している。

	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	56.0%	32.0%	12.0%	0.0%	0.0%	3.4	0.0
教職員	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	0.0%	3.1	-0.7
保護者	45.0%	53.3%	1.7%	0.0%	0.0%	3.3	-0.3



保護者の方々へ適宜学校としての情報(案内)について、その時々どのような情報が必要と考えながら文章を发出してきた。毎週1~2回程度不定期ではあるが、児童の様子を中心に学校だよりを発行してきた。また、スマホでも閲覧できるように考え、ホームページに学校だよりや通常の学校生活をアップするようしてきた。また、学校だよりやホームページ、学年だよりで児童がいきいきと活動する姿をお知らせしてきたが、必要とする情報が十分伝わっているか検証することも今後の課題としていきたい。

保護者アンケート16	子どもは交通ルールを守ったり、災 害から命を守ったりする態度が育っ ている。	教職員 自己評価16 防災・安全	児童の生命および安全を守るために、組織 的かつ計画的に学校安全、学校防災に取 組んだ。	児童アンケート16	1, 2年	とびだしや むりな おうたんは していない。
					3, 4年	安全や防災の学習を思い出し、命を守る行動ができる。
					5, 6年	安全や防災の学習を思い出し、命を守る行動ができる。

	そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度 との 比較
児童	60.0%	32.0%	8.0%	0.0%	0.0%	3.5	0.0
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3	-0.5
保護者	50.0%	48.3%	1.7%	0.0%	0.0%	3.0	-0.6



朝会や機会あるごとに「自分の命は自分で守る。そのためには自分がどんなことができるのか。どんなことをしなければならぬのか。」について日頃から意識できるように伝えてきた。毎週火曜日と金曜日の朝には、ボランティアの児童の参加ではあるが、「交通事故ナクسنジャー」の活動を通して交通安全への啓発と意識を高めている。また、登下校時の熱中症や引き続き基本的な感染症対策などに取り組んできた。また、大雨や地震などの吉井小学校周辺の自然災害も考慮しながら、児童が主体的に身を守り安全に行動できるように安全教育や防災教育の改善を図り、訓練を行った。継続的な取り組みが必要であり、今後も真剣な姿勢で取り組みたい。

## 教員の業務改善

教職員 自己評価17 業務改善	校務のスリム化、効率化に組織的に取り組み、子どもと向き合う時間の確保並びに教育の質の向上に努めた。
-----------------------	---

17	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答	平均値	昨年度との比較
教職員	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	0.0%	3.1	-0.6



校務のスリム化、効率化について組織的に取り組みを進めているが、校務支援システムによる退庁時間等の確認による勤務時間の見える化による縮減、管理職自らの年休取得の促進による個々の教職員の年休取得促進を促す等に努めているが、十分な効果とはなっていない。目の前に児童の成長する姿を常に思い描きながら教育活動に取り組む本校の教職員にとっては、教育の質の向上と教育の効率化という課題が常にジレンマとして感じている姿が見られる。学校の教職員の働き方改革については、継続的な取り組みが必要であり、児童への教育の質の向上と教育の効率化、教職員の健康管理等の有効な手立てについて改善策を講じながら、今後も真摯な姿勢で取り組みたい。